

# Nyonyum 21号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



## カンボジアと日本をつなぐ取り組み～現職参加教員の強みを生かして

これまで、「世界の笑顔のためにプログラム」を利用したボールを通じた交流(14号で紹介)、日本語教室でのオンライン交流(15号で紹介)など、カンボジアと日本をつなぐ様々な取り組みを行ってきました。12月、新たに2つのつながり・交流が生まれました！！

### 60個のボールがカンボジアに！国内各地で活動する隊員の元へ！！

札幌藻岩高校(所属校)の2年次「総合的な探究の時間」の学習活動の一環で、運動部に所属する5名の生徒が、カンボジアに合計60個のボールと空気入れを送ってくれました。協力隊員への希望調査の結果、10名の隊員がそれぞれの活動に合わせて用具を希望。12月に国内各地の隊員の元へ、無事届けられました。



送られてきたボールと生徒からのメッセージ(JICA事務所にて)



サッカーボール、バスケットボール、バレーボールは、サッカーアカデミー、小学校・中学校・高校の体育の授業、小学校の休み時間などで、有効に活用されています。



### なぜ、カンボジアにボールを？

「遊びの場、体育の授業や部活動などで、まだ使えるのに使われず眠ってしまっているたくさんのスポーツ用品を目にし、これらを有効に活用することはできないのだろうか」との思いが、彼らの活動の出発点でした。授業で、私のカンボジアでの協力隊活動を知ったことをきっかけに、「**国を超えてスポーツの楽しさを分かち合いたい**」との思いが芽生え、スポーツ用具をカンボジアに送ることを決意してくれました。その後、近隣の学校、地域の体育館や児童会館で使用されなくなったボールを回収、また町内会のお祭りやSDGsイベントにて募金活動を行い、郵送資金を集めてくれました。



力強く歩みを進めた生徒たち

### カンボジアの高校生が、札幌の高校を訪問

12月19日(火)、カンボジアの第3の都市バットンバン(任地スバイリエンから約360km)で孤児院『Hope Of Children』のマザーをされている岩田亮子さんと、その施設の高校2年生マリリアさんが、札幌の高校を訪問しました。岩田さんとは、カンボジア赴任前に、知人を介して知り合い、今年の5月と11月に、孤児院を訪問していました。日本語が堪能なマリリアさん。「日本の高校の授業を見学してみたい」との思いを聞き、高校に相談。札幌での支援者への報告会の開催に合わせて、高校訪問が実現しました。



2年次数学と1年次英語の授業に参加しました。数学は「とても難しかった」と感想を述べていたようです。

### 「Hope Of Children」を紹介

1992年に、寺院の僧侶によって設立。家庭内暴力や、また貧しくて教育を受けられない、あるいは自宅から学校が遠く通つことができない子どもたちを受け入れ、衣食住及び教育機会の提供、子どもたちが社会で自律的に生活できるよう、様々なプロジェクトを行っている。(パンフレットより抜粋)岩田さんは、2009年から、この孤児院で子どもたちと共に暮らし、深い愛情で彼らの成長を支えています。



2015年に、自立のためのプロジェクトとしてスタートしたHOCカフェレストラン。孤児院の卒業生であるスタッフを中心に、子どもたちが交代をしながら運営をしています。食材の一部は、自家製。手作りベーグルは、絶品です！



訪問時に、「YOSAKOIソーラン」を披露し、子どもたちと一緒に踊りました。とても気に入ったようで、その後も継続して練習されているそうです。来年2月のカフェレストランの周年イベントで、披露を予定しているとか。

カンボジアの「世界遺産」を紹介(3)

「アンコール遺跡群」(10号で紹介)、「プレアヴィヒア寺院」(11号で紹介)に続き、カンボジアの世界遺産を紹介します。

③ サンボー・プレイ・クック寺院地区

2023年12月下旬に訪問

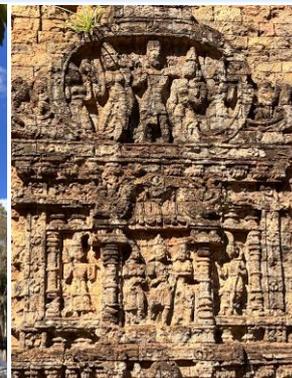
世界文化遺産への登録は、2017年。カンボジアの中部、コンポントム州に位置し、大きく3つの遺跡群からなるエリアに150を超えるレンガ造りの遺跡が散在している。**サンボー・プレイ・クック**は、当時の王・イシャナーヴァルマン1世によって7世紀前半に創建されたとされるチェンラ王国の都市で、クメール語で「豊かな森の寺院」と言われている。



緑あふれる静かなたたずまいの中、のんびりと散策しながら、木々に囲まれた遺跡を一つ一つ巡って行きました。雨季の時期になると、さらに緑があふれ、美しい光景が広がるようです。



代表的な祠堂の一つ、「**ブラサート・タオ**」。修復作業が進められていました。



「**空中神殿**」と呼ばれる精巧な彫刻も見どころの一つ。



～恐る恐るの初挑戦！～

遺跡に向かう道中の休憩所で、帰国前には挑戦したいと思っていた「**アピン**」と呼ばれる食用グモのフライを発見。1匹1ドル。香ばしいニンニクの香り、胴体は焼きたらこのような食感。意外に美味しく頂きました！



④ コー・ケー遺跡群

2022年12月初旬に訪問

世界文化遺産への登録は、2023年9月。カンボジア北部、プレアヴィヒア州に位置し、約9km四方のエリアに30以上の遺跡が散在している。アンコールワット建設よりも時代は古く、921年～944年の短い期間で、アンコールの地から遷都されたため「**幻の都**」とも言われている。



ピラミッド型寺院「**ブラン**」。巨石が多く使われ、大きな石柱だと高さ4.7m、横幅0.8mもの大きさがあり、重さが7トにもなる。7層建て、高さ36m。木製の階段で頂上に登ることができ、頂上から一望できる360度に渡って広がるジャングルの景色もまた、迫力満点。

「**ブラサット・プラム**」。3基の主祠堂と2基の経蔵が配置。樹木が遺跡に絡みついた光景は神秘的。

任期中に、カンボジア全4つの世界遺産を制覇することができました!!

豆知識

「世界遺産」とはまた別に、昔から守り伝えられてきた伝統の「技」に与えられる『**無形文化遺産**』というものがあります。カンボジアでは、以下の6件が『**無形文化遺産**』に認定されています。

- ▶ **アプサラダンス**(2003)：神々にささげるために宮廷で伝えられてきた舞踊。
- ▶ **スパエクトム**(2005)：牛の皮を加工して作った人形を用いた影絵芝居。(写真上)
- ▶ **綱引きの儀式と競技**(2015)：稲作の豊作を願って行われる儀式。
- ▶ **チャ・ペイダン・ヴェン**(2016)：ウクレレに似ている伝統の弦楽器。結婚式では欠かせない。
- ▶ **ラコーン・カオル**(2018)：神々を鎮め、豊作や繁栄を願って行われる仮面舞踊。(写真下)
- ▶ **ポックタオ**(2022)：伝統武術(6号で紹介)

参考)日本では、「能」「人形浄瑠璃」「和食」「和紙」など22件が登録されています。

